

第65回都市計画全国大会について

■第65回都市計画全国大会

平成25年11月21、22日に本県水戸市において、公益財団法人都市計画協会が主催する第65回都市計画全国大会が開催されました。

■大会の目的

都市計画全国大会は、全国の都市計画行政に携わる関係者が一堂に会し、都市計画の基本政策を研究研鑽し、都市計画に関する知識の普及や都市計画及び都市計画事業の諸問題に関する研究発表並びに啓発活動としての意見交換を目的としています。



■大会の内容

【第1日目】（於：茨城県立県民文化センター）

開 会 開会宣言, 主催者挨拶, 開催県挨拶,
開催市歓迎の言葉, 来賓祝辞

表 彰 式 第28回都市計画協会会長賞
第49回土地区画整理阿部功労賞
第34回公園緑地折下功労賞

全体会議 主報告
『都市行政をめぐる最近の動きについて』

部 会 テーマ毎に分かれ, 事例発表と意見交換

記念講演 『城下町水戸と水戸街道の成立』

閉 会 次期開催県挨拶, 閉会宣言

【第2日目】

都市計画関連事業等の県内現地調査(3コース)

- ・ 県北・県央コース(日立市, 常陸太田市, 水戸市)
- ・ 県央・県西コース(水戸市, 笠間市, 桜川市, 古河市)
- ・ 県南コース(水戸市, 石岡市, 土浦市,
つくば市, 守谷市)

◆部会

部会では3つのテーマが設定され, そのテーマに関して全国の市区町からの事例発表と意見交換が行われました。部会の概要は下記のとおりです。

【第1部会】 テーマ:『地域の文化的資源を活かした個性と魅力あるまちづくり』



まず, 水戸市より「水戸市の景観・歴史的資源を活かしたまちづくり」と題して発表がありました。

水戸市では, 水戸市景観計画および水戸市歴史的風致維持向上計画を策定し, 水戸らしい景観の形成, 歴史的建造物の保全と活用に取り組んでいます。

特に偕楽園周辺地区などの3地区については, 景観計画における重点的に景観形成を図る地区と歴史的風致維持向上計画における重点区域に位置付け, 良好な景観の形成や各種事業を進めています。

次に, 福島県白河市より「白河市における歴史・伝統・文化を活かしたまちづくり」と題して発表がありました。

白河市には白河関跡, 南湖公園, 小峰城跡など多くの歴史的資源が存在しており, 白河提灯まつりをはじめとする伝統的な人々の活動が現在でも広く行われています。

白河市では, 中心市街地活性化基本計画に加え歴史まちづくり計画を策定し, 小峰城の災害復旧, 歴史的建造物の保存修復, 伝統行事や技術継承などの事業を進めています。

次に, 群馬県甘楽町より「甘楽町小幡における歴史資源を活かしたまちづくり」と題して発表がありました。

甘楽町では, 池泉回遊式庭園の楽山園や特徴的な石垣な

どの歴史的風致を活用したまちづくりを進めるため甘楽町歴史的風致維持向上計画を策定し、歴史的建造物の保存・活用や情報発信拠点施設の整備、地域を流れる雄川堰の保存・活用などの事業に取り組んでいます。

最後に、愛知県犬山市より「『歴史都市 犬山』を創る」と題して発表がありました。

犬山市では、国宝の犬山城を中心に城下町が形成されており、犬山祭などの伝統行事とあわせて歴史的風致が形成されています。

犬山市においては、これらの歴史的資源保全のため歴史的風致維持向上計画を策定し、各種事業に取り組んでいます。さらに犬山城下町地区に隣接する低・未利用地を防災公園として整備するための検討が進められています。

【第2部会】テーマ：『市街地における居住の集積と都市機能の集約、公共交通の再生による都市構造の再編』



まず、土浦市より「土浦市の『コンパクトシティ』実現に向けたまちづくり」と題して発表がありました。

土浦市では、公共交通ネットワーク形成のためのまちづくり活性化バスの運行、市庁舎の駅前への移転や図書館を核とした市街地再開発事業の推進による都市機能の集約、さらに、亀城公園周辺において歴史的デザイン等に配慮した歩行空間「歴史の小径」の整備により城下町としての歴史を生かしたまちづくりに取り組んでいます。

次に、北海道旭川市より「旭川都心部のまちづくり～北彩都あさひかわ整備事業～」と題して発表がありました。

旭川市では、中心市街地の活性化を目指して、旭川駅の南側の旧国鉄の用地を活用した土地区画整理事業など、北彩都あさひかわ整備事業を進めています。この事業では市街地を分断していた旧国鉄用地に新たなまちを作り上げていくことで、忠別川の自然環境を生かしながら周辺の地区と一体性があり利便性の高い新たな中心市街地の形成を目指しています。

最後に、富山県富山市より「富山市の公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」と題して発表がありました。

富山市では、公共交通の活性化、沿線地区への居住の推進、生活に必要な都市機能の集積等による中心市街地の活性化を柱とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを目指しています。また、地図情報システム等を利用して都市構造の見える化を図り、まちづくりの効果把握・分析や進捗管理に取り組んでいます。

【第3部会】テーマ：『都市農地の保全・活用』



まず、東京都練馬区より「農のあるまちを次世代へ～東京都練馬区の取組～」と題して発表がありました。

練馬区では、都市農地の多面的機能性を見直し、これらの機能を発揮させるための「農業体験農園」などの事業を展開しています。一方で、都市農地の保全に向け相続税の制度改正などの要望活動、住民へのPRを実施しています。

次に、神奈川県横浜市より「都市農業の確立とまちづくり」と題して発表がありました。

横浜市では、市民の農業への参画を進めて、市民との共働による農地の保全につなげるため、多様な市民農園の整備や農業ボランティアの育成などを行っています。横浜市の農業は都市の魅力となっており、農業と市民と都市との共存の可能性について、常に新たな視点から「農のあるまちづくり」として検討しています。

最後に、兵庫県明石市より「都市と農が共存した、緑あふれるゆとりある都市環境の創出に向けて」と題して発表がありました。

明石市では、将来的にも残存する市街化区域内農地の適正な活用・保全のため計画的な土地利用の誘導が求められています。このような中、明石市は「集約型都市形成のための計画的な緑地環境実証調査」に選定され、3大都市圏特定市以外の都市における生産緑地地区の導入方策に活用できるよう検討内容を整理し、留意すべき点などをまとめています。



◆第28回都市計画協会会長賞について

都市計画協会会長賞は、公益財団法人都市計画協会の設立40周年を記念し、昭和61年度に創設されました。

毎年都市計画全国大会が開催される都道府県の管内の市町村であって、都市計画に関して優れた計画立案を行ったもの、または都市計画事業の実施について優れた工夫、顕著な功績を残された市町村が表彰されています。

今回は水戸市、日立市、土浦市が受賞しました。

◎水戸市受賞概要

『水戸の魅力と活力にあふれ、

人が回遊する都市空間の再生』

水戸市は、総合計画において大工町周辺から水戸城跡周辺までの国道50号沿道周辺の地区を市の発展をけん引する「都市核」と位置付け、都市基盤整備や様々な都市機能の集積を推進し、周辺の自然環境や歴史・文化等の地域資源を活用しながら魅力の創出に努めています。

大工町1丁目地区第一種市街地再開発事業では、ホテルや業務施設、都市型住宅などの複合施設を整備しています。



大工町1丁目地区

水戸市中心市街地地区都市再生整備計画事業では、回遊性の向上とにぎわいの再生のため、水戸駅の北側に位置する弘道館・水戸城跡や偕楽園など、水戸市歴史的風致維持向上計画に基づく歴史的資源を活用したまちづくりや歩行者空間の整備等に取り組んでいます。



水戸城跡二の丸周辺



偕楽園御成門通り

このように、水戸市では、賑わいの創出を図る大工町1丁目地区第一種市街地再開発事業と弘道館・水戸城跡周辺地区、偕楽園周辺地区の歴史的資源や千波公園の水辺空間を活用した都市再生整備計画事業によるまちづくりを一体的に進め、魅力と活力にあふれ、年間を通して人が回遊する都市空間が再生されつつあります。

◎日立市受賞概要

『日立の顔として誇れる都市拠点の形成を目指して』

日立市では都市拠点としての更なる強化と交流人口の拡大を図り都市の活力を高めることを目的に日立駅周辺地区整備構想を策定し、構想実現の重点事業として自由通路、橋上駅舎、情報交流センター等を位置付けて日立駅周辺地区都市再生整備計画事業により整備されました。

事業を推進するにあたっては、日立市出身の世界的建築家妹島和世氏をデザイン監修者に選定し、景観的にも連続性があり一体感のあるデザインを実現しています。



日立駅舎西口付近



日立駅舎東口付近



自由通路

また、国道6号日立バイパスから東口交通広場へのアクセス道路となる市道等の整備により、歩行空間の確保、交通結節点としての機能を向上させています。

これら一連の事業によって、情報センターや海の見えるカフェや展望イベントホールには多くの市民や観光客が来訪するなど交流拠点としての機能しており、さらに、隣接する日立シビックセンターにおいても利用者数が増加するなど、駅周辺にも良好な波及効果を及ぼしています。



展望イベントホール

このように、日立駅周辺は交通結節点としての機能が向上するとともに、都市拠点としての強化と日立らしさの演出が交流人口の拡大と都市の活力向上に繋がっています。

◎土浦市受賞概要

『にぎわい・生活・交流拠点を中心とした、

多くの人々が集い交流する市街地の再生・創造』

土浦市では、土浦駅周辺地区を都市づくりの核的拠点として位置付け、歴史的資源を生かしたまちづくりと交通アクセスの整備を図ることにより、人が集うにぎわいのあるまちの創出を目指しています。

歴史的資源の活用として、市の歴史・文化のシンボルでもある土浦城址を中心としたエリアにおいて、亀城公園や歴史の小径の整備を実施しています。



歴史の小径

交通アクセスの整備としては、中心市街地の慢性的な交通渋滞の解消を目指し都市計画道路川口田中線の整備が進められています。

土浦駅周辺では、土浦駅前北地区で図書館を核とした土浦駅前北地区第一種市街地再開発事業に取り組んでいます。



土浦駅前北地区（市街地整備イメージ）

また、土浦市では市庁舎の移転先を土浦駅前西口の商業施設跡地に決定し、平成27年度の開庁に向け準備が進められています。



新庁舎予定地

このように、土浦市は、多くの人々が集い交流する市街地を目指して、歴史的資源を活用したまちづくりと公共施設等の土浦駅周辺への集積に取り組んでいます。